

2022.11.23 東北ブロック労働者協同組合法周知フォーラム



ワーカーズコープ大槌地域福祉事業所
地 域 共 生 ホ ー ム
ね ま れ や

ワーカーズコープ北東北事業本部 古澤 光 >

岩手県大槌町



3.11

東日本大震災により

- 地震、津波、火災、、
- 建物被害は町の68%
- 死者、行方不明者は1286名
- 町役場は町長はじめ39名が亡くなった。
(職員の約3割)
- 役場旧庁舎を保存するか解体するかで
議論が続いた。





**大槌町大ヶ口 地域共生ホームねまれや
2016年1月開所**

- » 大槌地域福祉事業所
- » 就労者 18人 うち組合員17人
- » 事業所出資金計 365万円

地域共生ホームねまれや

通所介護
デイサービス



学童保育
ぽこあぽこ



日中一時支援



菓子工房
さくさく



地域活動支援センター
2021.4～



大槌町放課後児童クラブ
(委託) 2022.4～



子ども食堂 ・ 買い物ツアー ・ お茶っこ
ものづくりサロン ・ 介護予防体操 ・ ひきこもり支援

心の復興補助金(復興庁)

地域の介護予防体操教室、ものづくりサロン、買い物ツアー、子ども食堂などの取り組み



こども食堂

2012年～2014年 大槌町緊急雇用創出事業

大槌町に必要な仕事をつくることを目的にワーカーズコープが呼びかけ集まってきた住民と一緒に活動をはじめ。

2012年秋ごろまで・・・

本部役員や専門家、地域で活動している方と一緒に『おおつち元気お輿の集い』を行い、地域の資源や課題について検討しながら、様々なアイデアや意見が出る・・・ 湧水豆腐、菜の花BDF・・・

一方で、町のために何かできるかなと集まってきた一住民の仲間たちは、ついていけない感じ・・・

一歩進んでいかない感じが続く・・・

2012年～2014年 大槌町緊急雇用創出事業

2012冬・・・

一人の仲間の声・・・

『小学校が冬休みの間、子どもをみないといけないので、
休ませてもらえますか？』

大槌町にはその当時小学1～3年生をみてる町営の学童が
1か所

4年生以上の子は、震災後に支援団体がつくってくれたこどもセ
ンターがあった。

選択肢は一つ。こどもが大人数が苦手だったり、上手くあわない
と次の選択肢はない・・・

2012年～2014年 大槌町緊急雇用創出事業

事業所の中で相談し、自分たちで子どもを預かる事業やってみてもいいんじゃないかな？

こどもセンターが10時からしかあかなくて、親が働いていると預けられないという声もある・・・

⇒一人の仲間の困りごとから、試しにやってみる

⇒長期休み中の早朝預かりサービス

⇒もう一つの選択肢としての自前学童保育・日中一時支援事業

⇒公的補助金を利用しての学童保育に移行(2017)

⇒町営の学童保育事業の委託も受けるように(2022)



2015年～2016年 ねまれや立上までの移行期

緊急雇用事業の期限となる3年間が終了。期間中に準備してきた事業がまだちゃんとできていない状態・・・

何に挑戦しても、給与が補償されていた3年間。事業の立上に向けて待遇も補償されない中で挑戦を続けるか考え、残った仲間は6人。福祉や食、エネルギー様々なことを検討してきた。残った6人の多くは『福祉』の活動をしてきた仲間達。

⇒自分たちで考えて、取り組んできた活動をこのまま終わりにすることはできない思い。この2015年3月が大きな決断の時だった。

⇒地域活動に使える助成金を獲得したり、人手が欲しい宿泊施設の皿洗いのアルバイトをしながら、建設が遅れている施設建設を目指す。

2016年2月 地域共生ホームねまれや開所

施設の建設が完了し、念願の地域共生ホームねまれやの開所

多くは、介護事業もはじめての仲間達。経験者の看護師中心に、自分たちで試行錯誤しながら、新たな挑戦を開始・・・

2年ぐらいは利用者も伸び悩むが、今ではすっかり地域になくってはならない施設へ

大槌町での仕事おこしへの挑戦を振り返って

○事業のはじめの一步は、働く仲間の困りごとからだった

○自分たち自身で考えて、創り上げてきた事業への思い

⇒『ねまれやさんは職員が辞めないですよね』

○はじめは何をしたいのかわからない団体とみられていた...

⇒気づけば震災後にたくさん活動していた支援団体も3年、5年と節目を迎えるごとにほとんどいなくなっていく

⇒今では、ねまれやは地域住民からも役場からも頼られる存在

『短期的な支援』 ⇔ 『長期的な育成』

持っている力を引き出す、覚悟を決める

スーパーマンはいなくても力を合わせることで、

地域に貢献できる事業ができる！！

大槌町での仕事おこしへの挑戦を振り返って

スーパーマンはいなくても力を合わせることで、
地域に貢献できる事業ができる！！

仲間達が成長した(持っている力を生かせる職場ができた)

協同労働という働き方と、3年間の緊急雇用事業の存在

これから立ち上がる人たちのために・・・

緊急雇用事業の様な、挑戦するための仕組みがあると
より多くの人活躍できる機会をつくれる

スーパーマンがいないというか・・・困っている人自身が立ち上がり、支え合ってきた・・・

仲間のAさん・・・自分自身の居場所を求めながら働いている
自分も居場所が欲しいから他の人の居場所も
つくりたい

災害公営住宅サロンや買い物ツアーを担当
時々、気持ちが悪くなり出勤できなくなることもある。
誰かが休んだ時にはだれかが支える
勤務時間など柔軟にかえながら、働けるように工夫してみる

Aさんが何か月出れなくなった時、支えたのは仲間だけじゃなかった。サロンにきている方が声掛けに

そして、今… 実際は…

地域に頼られる事業所に成長してきた。
様々な境遇の働く仲間も一緒にいる。
事業も広がり、働く仲間も増えてきた

話し合う時間をどうつくるのか？

思いのすれ違いや衝突が起きることもある

協同することの難しさも感じながら、今も働きやすい職場をどうつくるのか、利用者さん、地域のために何ができるのか挑戦し続けています。